

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374500516		
法人名	株式会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり (さくら)		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和3年2月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念のように「笑顔の見られる介護」を目指し、日々利用者がその人らしく活気がある生活ができるよう、スタッフと共に考えています。  
 外出では各々の行きたいところを聞いて水族館、海、そば打ち体験、イルミネーションに行かれています。お誕生日の月に外食に出かける方もいらっしゃいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広大な緑地が広がる森林公園の傍りに事業所が位置し、四季を通して木々や草花の移り、野鳥のさえずりを感じ取れる閑静な環境にある。木を基調とした平屋建てで、ユニットが回廊式の廊下で繋がっており、中庭には広いウッドデッキがあり四季の変化が楽しめる花の咲く木や実のなる木々、草花が植えられている。開設と共に植えられた栗の木は、たわわな実をつけホームのシンボルツリーともなっている。事業所の理念「この町で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を基に、職員一人ひとりのサポート目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを意識して実践に繋がっている。自治会主催の夏祭りや運動会の参加、保育園とは敬老会や運動会などに相互訪問したり、中学生の職場体験も受け入れている。また、アコーディオンやバンド演奏のボランティアの受け入れもある。食材の買い物やドライブなど個別の外出支援や家族の協力を得て季節の花見や水族館、テーマパークなどの外出支援をしているが、コロナ禍で踏み止まっている。食事は季節の旬の食材を取り入れた献立で毎食手作りし、事前準備や後片付け、盛り付けなどは職員と一緒にしている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、鯉やちらし寿司、おやつなどを作り食べる楽しみに繋げている。居間でテレビを見たり談笑したり、広いウッドデッキで草花の手入れや日向ぼっこをして森林浴をしたり、四季の変化を楽しみながらお茶会などをして緩やかな時を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この街で自然に暮らし 笑顔の見られる介護」を理念とし、スタッフの休憩室に掲示している。	事業所理念の「この町で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を職員休憩室に掲げ、常に理念を意識して実践に繋げている。毎月の研修時には、「笑顔とは何？」や「地域とつながる大切さとは？」などについて考え、職員全員の意識の統一を図っている。また、理念に近づくための取り組みとして職員一人ひとりのサポート目標をユニット会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近くの保育園児の来訪や運動会に招待されている。	町内会に加入し回覧板で情報を得ている。今年度は、コロナウイルスの影響で中止となっているが、例年では自治会主催の夏祭りや運動会に積極的に参加し交流を図っている。近隣の保育園児とは、敬老会や運動会などに相互訪問したり年間を通して様々な交流をしている。また、アコーデオンやバンド演奏のボランティアを受け入れたり、中学生の職場体験などを受け入れたりして地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や看護学生、福祉短大の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年五回開催している。市職員、家族の要望などを聞いている。実情や取り組みを伝え、意見を伺っている。	家族、地域住民、市職員の参加を得て年5回実施しているが今年度はコロナウイルスの影響で書面での開催となっている。例年では、事業所の運営状況や活動内容を報告したり外部評価の結果の報告や取り組みなどを伝え、参加者からの情報や意見、提案はその場で話し合ったり、職員会議などで協議し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、必要に応じて相談をしている。	市の担当者が運営推進会議や施設行事に参加しているため施設の実情やケアサービスの取り組みなど常に報告や相談ができる体制にあり、良好な協力関係を築いている。市主催の研修会などは、コロナウイルスの影響でズームやオンライン研修に変更され受講している。また、管理者は地域ケア会議に参加し、居場所部会の委員として地域活動の手伝いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」を休憩室に掲げている。ホーム前が道路なので、施錠をしているが、テラスの出入り口は施錠せずに自由に行き来できる。	年2回身体拘束の研修を行い、拘束に対する意識を高め、スピーチロックに配慮した支援や、束縛感のない環境づくりに努めている。職員休憩室に「身体拘束排除宣言」を掲げ、職員間で認識し、共有を図っている。職員の見守りの中、自由にテラスや中庭に出て山桜や紫陽花、栗の木や花を眺めたり広い回廊式の廊下を散歩したりして、開放的で自由な暮らしができるような支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議など話し合いをしている。スピーチロックなど行わないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方も見える。研修を行い活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学に来ていただき、疑問点などを伺っている。契約時に説明を行い、理解、納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を伝えたり、毎月通信や日頃の様子をお便りにしている。面会時には話しやすい環境作りをしている。	入居者からは日々の関わりの中から要望などを聞くようになっている。家族からは面会時や行事などで気軽に話せる雰囲気を作ったり、電話などで意見や要望を聞くようになっている。今年はコロナウイルスの影響で行事などは自粛しているが、玄関先でのガラス越しの面会の他にライン連絡も取り入れている。意見や要望は、記録して会議等で話し合い、職員間で共有してケアや接遇などの改善に役立てている。毎月の通信に担当職員からのコメントを載せて家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やユニット会議、朝礼時などに意見を言える場がある。	日々の朝礼やケアの中で話しやすい環境づくりに努めている。毎月のユニット会議やスタッフ会議では職員からの提案や要望を聞き協議をして運営に反映させている。キャリアパスシートを用いた自己評価や満足度調査を実施し意見の集約をしている。また、必要に応じて個別面談を行い将来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設け処遇に反映させ、さらなる成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者と面談があり、勤務時間や要望などを伝え、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加など個別に知らせてくれたり、見やすい場所に掲示し知らせてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会、事業者会などに参加し、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご本人の思いや、困っていることをしっかり聞き、入居後も思いや要望を伺い、要望に沿えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や不安な点等伺っている。入居後の不安なことなどは面会時に伺い信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より本人、家族から生活歴などを聞き、情報を集め、必要な支援は何かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは一緒に行い、本人らしい生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやクリスマス会、忘年会などの行事に参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の方の面会がある。	フェイスシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、買い物や家族とお墓参りなどの外出や外食に行くなどの継続支援に努めているが、今年は、コロナウイルスの影響で自粛している。友人や知人などの面会は、コロナ禍により、玄関での対応やテラスと居間のガラス越しの面会としている。平常時では訪問しやすい配慮をしている。日常の家事や洗濯物たたみ、掃除、畑の水やり読書など、今までの生活経験が途切れないよう入居者一人ひとりが活躍ができる支援を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職責などの配置は相性を見ながら時々移動をしている。利用者様同士が関わりあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も転居先に面会に行ったり、ご家族様とお会いした時には近況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人らしい生活が送れるように、何気ない会話の中から希望や要望などを把握できるように努めている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、入浴時や夜間帯の寛いでいる時に思いや希望を聞くようにしている。日常のさりげない会話や表情など、ケアの中から感じ取ったことは、連絡ノートに記録してユニット会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き情報収集をし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできることを支援し、生活リズムやペースなおどお把握し、支援しながら過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回ユニット会議で話し合い、ケアの方法を共有している。	日常の様子を記載したケース記録や連絡ノートを基に入居者の希望や家族の意向に沿って週に1度のユニット会議で課題について話し合いを行い、情報を共有している。半年ごとに計画の見直しを行い、毎年、医師や看護師、薬剤師などの意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートやユニット会議録を作成し、ケアの方法を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合わせ、希望に合うように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などを通して地域の様子を知ってもらっている。楽しみを持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方はそのまま通ってもらっている。通院が難しくなったら、往診医に変更することもある。	家族の協力を得てかかりつけ医に継続して受診できるよう支援をしているが、必要に応じて内科は月2回提携医による往診と薬剤師も同席し薬の手配や管理、配薬等の相談にも応じている。また、歯科医による治療など往診の必要があれば希望により受けられる。身体状況に変化があった時や緊急時は24時間体制で提携医や協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に主治医や看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院ができるよう病院関係者と教法共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する要望を入居前に伺っている。ご家族と共にできること、不安を取り除けるように話し合いを重ねている。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の意向書を作成している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、主治医を交え方針や状況を説明した上で意向を再確認し、医療機関などの利用も視野に入れながら家族と一緒に看取る体制を整えている。家族や医師、看護師と話し合いながら、入居者が安心して生活が送れるよう柔軟な考えで支援をしている。職員のメンタルケアについては実践の中で伝え、看取り後に「偲ぶ会」を持ち職員の精神的ケアにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルが電話近くに置いてある。研修を行い学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練をしている。	年2回火災や地震を想定し、昼間の職員体制で防災訓練のシミュレーションを行い、避難時の動線や消火器の配置の確認など書面で行っているが、実際の訓練には至っていない。備蓄品は3日分の水や食料、防災用品などを備えている。食料については、備蓄品をローテーションして常に新しくしているが、リストでの管理はされていない。	想定外の災害が起こる昨今であり、話し合うだけでなく、実際に夜間の職員体制も含め、あらゆる危険性を想定した訓練を試みることを願いたい。また、消防関係者の協力を得て、災害時の避難経路や安全確保などについて専門家からの指導や助言を受け、より安全性の高い訓練の実施を願いたい。更に、震災時に危険と思われる、梁などの高所に置かれた荷物の落下や倒壊など職員で検討し、改善されることを期待したい。また、食料や水、毛布や懐中電灯などの備蓄品の個数や賞味期限の管理、保管場所等を記載したリストを作成して全職員に周知し、緊急時に備えることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、言葉使いに気を配り、特に排泄面などの言葉使いに配慮している。	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、個々の生活スタイルや思いを把握して継続できるような支援をしている。また、入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、それぞれの立場を尊重したケアや言葉かけに配慮し、職員の対応に差が生じないように心がけている。お風呂や日々の会話など男性が窮屈な思いをしないような配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から利用者様の思いを表してもらえよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩がお好きな方はその日の天気、体調など状態を見ながら出かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度床屋、訪問美容が来訪している。服装は季節に合わせて一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週木曜日に利用者と一緒に考えたメニューを出している。食事の準備、片付け等スタッフと共に行っている。	季節の旬の食材を取り入れて栄養バランスに配慮した献立で毎食手作りしている。事前準備や後片付けなどは、その人の能力に合わせて職員と一緒にやっている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、ちらし寿司などを作っている。平常時であれば、職員と食材の買い物をしたり職員も一緒に食卓を囲んだりして食を楽しんでいる。季節の行事食や外食、手作りおやつやの鬼まんじゅうやおこしもの作りも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に応じて調節をしている。刻むことが必要な方には刻んで提供している。水分の取れない方には声掛けを工夫したりし、摂っていただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。ご自分でできない方はスタッフと共に行っている。訪問歯科を受けている方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のケース記録に排泄チェックがあり、利用している。排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声掛けをしている。	座位での排泄支援に心がけている。排泄状況はチェック表で確認し、その人の排泄パターンを把握したり、表情や行動から察知してトイレでの排泄を維持し、その人に合わせた支援をしている。夜間も、安眠を妨げない配慮と尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	小まめな水分補給、牛乳、ヨーグルトなどを取り入れている。適度な運動をし、自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態やタイミングを見ながら入浴されている。スタッフの見まもりが嫌な方はお一人でゆっくりと入浴されている。途中声掛けをし確認をしている。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいただいている。	入浴は2日に1回を目安にしているが、入居者の希望に合わせて毎日の入浴やひとりでの入浴などに対応し、個々の思いに沿った支援に心がけている。湯の清潔や冬季のヒートショックに配慮した環境を整えたり、季節を感じられるゆず湯やしょうぶ湯等で入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が必要な方には休んでいただいている。居室でラジオを聞いたり、一人の時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明はカウンターに置いてある。変更がある時は申し送り、記録に残し、情報の共有をし、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーがお好きな方にはお出汁したり、ゲーム、体操、歌など、楽しんでいただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛けている。時間がある時は森林公園まで出かけている。	体調にあわせて日常的に散歩に出よう心掛け、お天気の良い日には、テラスに出て菜園の水やりや落ち葉の掃除、日向ぼっこなど外気に触れ四季の移ろいを感じられる支援をしている。コロナ禍で外出の自粛もあるが、例年では食材の買い物やドライブなど機会あるごとに個別の外出支援に心がけている。家族の協力を得て季節の花見や水族館、テーマパークなどの外出支援を計画したり、誕生日外出など、それぞれの体調や体力に合わせて無理のない支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かり、外出する時にはお金を持ち、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って入居されている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節ごとのタペストリーを飾っている。毎月のカレンダーは利用者様と共に作っている。廊下の写真コーナーは外出時やイベントの写真を飾っている。コロナ禍なので、換気をしながら室温管理を行っている。	木をふんだんに使った温もりのあるログハウス調の建屋で、天井が高く明るく風通しが良い。洒落た小上がり和室のある居間と食堂がワンフロアとなっている。各ユニットの玄関には入居者と一緒に作成した和のタペストリーや油絵などを飾り落ち着いた大人の雰囲気となっている。入居者はそれぞれのお気に入りの場所でテレビを見たり、テラスで日向ぼっこやお茶をしたりして寛いでいる。毎日の掃除やテラスの落ち葉の掃き掃除をしたりして住み心地の良い環境でのんびり過ごしている。森林浴が楽しめる外気や空調などで、温度や湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士、テレビを見たり、思い思いに過ごせる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具を持ってきていただいたりし、ご本人の好む空間作りをしている、	居室前に写真付きの表札を掲げ自分の住まいとしての環境を整え、窓は大きくベンチのある部屋もあり風通しも良い。クローゼットとエアコンが備え付けられ、使い慣れた筆筒や仏壇、椅子、テレビ、などを持ち込み、家族の写真など好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。清潔保持と安全に配慮して心地よい生活環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりがあり、トイレが分かりやすいように矢印もある。居室前にはご本人の写真入り表札もある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374500516		
法人名	株式会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり (ひまわり)		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374500516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和3年2月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍で外出はできませんでしたが、通常はなばなの里のイルミネーションや、名古屋港水族館、南知多ビーチランドなどに出掛ける機会を設けています。  
 今年はテラスで日向ぼっこをしたり、桜やコスモスなどドライブに出かけ、出来ることを行っています。食事でもビタミンB12や葉酸を多く含む食材を取り入れたり、お米を7分付きにするなど、食事面も気をつけています。普段は献立ですが毎週木曜日に利用者様と季節の食べ物を考えてメニューを作っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広大な緑地が広がる森林公園の傍りに事業所が位置し、四季を通して木々や草花の移り、野鳥のさえずりを感じ取れる閑静な環境にある。木を基調とした平屋建てで、ユニットが回廊式の廊下で繋がっており、中庭には広いウッドデッキがあり四季の変化が楽しめる花の咲く木や実のなる木々、草花が植えられている。開設と共に植えられた栗の木は、たわわな実をつけホームのシンボルツリーともなっている。事業所の理念「この町で自然に暮らし、笑顔の見える介護」を基に、職員一人ひとりのサポート目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを意識して実践している。自治会主催の夏祭りや運動会の参加、保育園とは敬老会や運動会などに相互訪問したり、中学生の職場体験も受け入れている。また、アコーディオンやバンド演奏のボランティアの受け入れもある。食材の買い物やドライブなど個別の外出支援や家族の協力を得て季節の花見や水族館、テーマパークなどの外出支援をしているが、コロナ禍で踏み止まっている。食事は季節の旬の食材を取り入れた献立で毎食手作りし、事前準備や後片付け、盛り付けなどは職員と一緒にしている。毎週木曜日の「考えるメニューの日」には入居者の希望を聞いてお寿司を注文したり、鯉やちらし寿司、おやつなどを作り食べる楽しみに繋げている。居間でテレビを見たり談笑したり、広いウッドデッキで草花の手入れや日向ぼっこをして森林浴をしたり、四季の変化を楽しみながらお茶会などをして緩やかな時を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この街で自然に暮らし 笑顔の見られる介護」を理念とし、いつも目に入る場所に掲示し、常に意識して実践に繋げるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩してあいさつしたり、近所の喫茶店を利用し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験に来てもらったり、推進会議に参加していただき、理解をしていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5回開催し、現状報告やご家族と共に情報を共有し、意見をサービスに活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき意見を聞いたり、夏祭りやクリスマス会などに参加していただき、良い関係を築けるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、理解している。すぐ前に道路があるため、玄関は施錠をしているが、テラスなどは自由に出入りができるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い学んでいる。事例検討なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいらっしゃる。必要性について話し合いを行い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族、本人を交えて説明し、不安や疑問を聞き、理解してもらえるようにしている。料金の変更や海底のときは口頭と文章で説明し、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時に伺い、運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、スタッフ会議、朝礼など、意見を出し合い反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休日の要望は満たされている。職員個々の努力や得意分野を生かすようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は目に留まるところに掲示し、参加できるようにしてある。インターネットのフォローアップ研修などで学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市内の施設間で事例検討を行ったり、交流する機会があり、参加していましたが、最近では開催されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い、不安や要望をしっかり聞き、入居後安心してもらえるよう話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合う機会を作り、不安や要望を聞き、不安が軽減できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が今、何に困っているのか聞き取り、必要な支援を見極めるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行ってもらい、役割が持てるような支援を心掛けている。食事づくりや掃除、洗濯など一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より連絡を取り合い、面会や外出をしている。毎月様子をお便りにし、日頃の生活や支援の方向性を伝え、共に支えていけるよう関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店やスーパーに買い物に出掛けたり、近所の方に面会に来ていただいたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が話ができるように席を配慮したり、他の方とも関りが持てるよう定期的に席を変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に伺ったり、家族と連絡を取り合い、行事に参加していただいたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から本人の希望をくみ取り、添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族より生活歴を聞き、把握し、日々の生活の中で得られた情報を照らしてケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩が好きな方は一緒に出掛けたり、できることを行いながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度ユニット会議で本人の今の課題を話し合い、意見やアイデアをケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノートを用い情報の共有を図っている。ユニット会議の内容を介護計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に応じ外出支援をしている。季節に合わせ、花見や遠足、外食など、できる範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に行ったり、スーパーやドラッグストアに買い物に出かけている。中庭にデッキがあり、日光浴や花を見て楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して通える方は受診している。往診に来てくれる病院もあり、状態に応じて返送されることもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は記録に残し、管理者に報告し、必要に応じて主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し、病院関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期についてのホームの対応などを説明している。状態の変化に応じ、その時々意向などを確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修時に訓練を行ったり、ヒヤリハットが起きた時は話し合いをし、対応している。緊急時対応マニュアルが電話のところにあり、定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや声の大きさ、言葉使いに注意している。排泄介助には直接的な言葉ではなく、隠語を使い羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩の時などの日頃の会話の中から本人の思いや希望をくみ取り、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや好み、身体能力に応じてできる限り自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を本人が選んできている。訪問美容に来てもらい、カラーなどをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度考えるメニューの日があり、季節のものや、好きな食材を聞き、楽しんでもらえるようにしている。準備や後片づけも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量を提供している。夏はゼリーなど口当たりの良い物をお出しし、脱水を防ぐようにしている。お風呂上りはホーム手作りのスポーツドリンクを飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。できない方は介助している。定期的に訪問歯科に来てもらい、治療している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を付け、排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように支援している。パットやリハパンでの失禁を減らせるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維が多い野菜やヨーグルトや牛乳をとっていただいている。散歩や運動をし、水分をとっていただき、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただいている。好きな方は時間に余裕があるときはお誘いし、楽しいんでいただけるようにしている。ゆず湯やしょうぶ湯などを楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠がしっかりとれるよう昼間に活動してもらえよう働きかけをしている。必要な方には昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストがあり、薬の内容などが書かれている。変更時は連絡ノートや申し送りをし、変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや得意なことを考慮し、散歩や歌、料理、レクリエーション、外出、外食などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩に出かけている。水族館やお花見、テーマパークも本人の希望に合わせ、ご家族にも協力していただき出かける機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて所持している。タクシーで病院に行ったり、買い物や喫茶店で使ってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおられ、連絡を取られている。年賀状を書いてやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節に合わせた花を植え、廊下には写真コーナーがある。フロアの行事予定は毎月季節に合わせて利用者様と作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや藤のいすを置き、事由に座っている。ホームで、犬と猫を飼っており、抱っこしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのあるタンスやお仏壇を持ってこられ、居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、安全に歩行ができるようにしてある。トイレには大きな文字で表示し、わかりやすいようにしている。居室前には本人の写真入りのプレートを飾り、わかりやすくしている。		